

令和8年2月25日

令和7年度 学校教育自己診断について

○アンケートの回答形式

Google フォームで実施し、選択肢は以下の4種類とした。

A よくあてはまる、B ややあてはまる、C あまりあてはまらない、D まったくあてはまらない

生徒はすべての回答を必答にし、保護者は判断に迷う項目については未回答も可能とした。

教職員の事務職員も同様に未回答も可能にした。

○アンケートの実施期間

保護者:11月28日～12月18日

教職員:12月17日～1月8日

生徒:1・3 年 12月15日の HR 2年 12月4日の HR

○回答数

保護者:322

生徒:849

教員: 41

○比較分析の方法

A・B を合計した数／回答数……「肯定率」とする。

前年度のデータと比較することで、学校運営に対する評価を分析検討する。

(1)保護者アンケートについて

肯定率の平均 85.4(前年比 3.3%増)

筆答 1年20 2年12 3年5 計37件

肯定率平均は前年度と比べ3.3%の増加であった。

肯定率が90%以上だったものは、「5. 枚方高校の教員は子どもの評価を適切公平に行っている。」、「6. 枚方高校の教員は保護者の相談に適切に応じている。」、「8. 枚方高校の教員は生徒の人権を尊重して教育活動に取り組んでいる。」、「9. 枚方高校は子どもに人権を尊重する意識を育てようとしている。」、「10. 枚方高校は雰囲気良く生徒が生き生きしている。」、「17. 枚方高校は子どもに生命を大切にする心や社会のルールを守る態度を養おうとしている。」、「22. 保護者用 classroom」はよく役立っている。」、「27. 枚方高校が保護者に出す文書・事務連絡等は適切である。」、「28. 枚方高校では子どもに関する個人情報を守られている。」、「31. 学校は1人1台端末を効果的に活用している。」の10項目であった。

一方で、50%台の項目は「24. 枚方高校の学習環境についての施設・設備は満足できる。」であった。施設については公立高校の今後の課題である。

(2)生徒アンケートについて

肯定率の平均 89.2%(前年比 1.7%増)

筆答 1年19 2年10 3年9 計38件

「10. 人権について学ぶ機会がある。」「11. 将来の進路や生き方について考える機会がある。」「35. 自分と違う意見を尊重することができる。」「学校等で、他の人と協力し合うことができる。」の4項目においては肯定率が 95%以上、肯定率が最も増加したものは、「24. 学校生活についての先生の指導には納得できる。」76.2%(6.1%増)であった。

肯定率の高いものについては維持し、低いものについては、その要因について検討し向上に努めたい。

(3)教職員アンケートについて

肯定率の平均 87.2%

筆答 1 件

肯定率が最も高かったものは、「43. コンピュータや ICT 機器が授業で活用されている。」の項目(100.0%)であった。他には、「6. 各教科において、教材の精選・工夫を行っている。」「7. 教員は授業の指導法について、工夫・改善に努めている。」(97.2%)が次に高かった。一方、「校則が、生徒の実態や人権尊重の立場から適切であるかについて、話し合う機会がある。」の項目(63.9%)が低い肯定率であったが、昨年度より肯定率が19.2%増加した。今年度は昨年度より肯定率が全体で8.5%増加した。来年度も更に肯定率が上がるような取り組みを行っていく。

(4)アンケート全般について

一昨年度より Google フォームでのアンケートを実施しており、集計の効率化が図れるようになった一方、個人が特定されない形で集計しているため、未提出者に回答を催促することが難しい。来年度は、保護者の回答率を上げることが課題である。

アンケートの結果については、各分掌で話し合う機会を設けているが、今後は分掌を超えて課題について話し合う機会が必要になってくると考えられる。特に、保護者・生徒・教員すべてにおいて肯定率が低いテーマについては、改善に向けての取り組みを早急に進めていきたい。

以上